

建廃協 NEWS 112号

2025年11月26日東明興業所沢工場の見学を実施しました。

組合の共同購買では番線やフレコン、安全靴等を購入していただいている。また、二次処理ではウムヴェルトジャパンの蛍光管、ギプロ、トクヤマチヨダジップサムへの廃石膏ボード等を利用していただいている。

早速、共同購買品の使用状況を確認しました。

番線について

10基の台座付き番線を使用し稼働していました。主に軟質・硬質廃プラスチック類を破碎圧縮後のものに使用していました。

1m³のサイコロ圧縮された廃プラスチック類を番線にて固定し、最後に飛散防止のためラップを巻いて、搬出（出荷）先の受入条件ごとに巻いた番線を抜くなどの対応もしていました。

また、巻かれたラップには、搬出（出荷）先が明記されていました。



フレコンについて

フレコンはフィートで購入していただいている、多量のためどのように保管しているのか確認したところ、鍵付き倉庫にて整理され保管していました。

格納するところが確保できれば、フィート購入したほうが安いとのことでした。

お客様の現場で使用するため、安全を確保できるよう新しいフレコンのストックは欠かせないそうです。



SPOTLIGHT

圧縮袋

東明興業が発案し共同購買として現在販売している圧縮袋を、現場でどのように使用されているのか実際に使用テストさせていただきました。東明興業では主に軟質系廃プラスチック類専用袋として、使用しているとのことです。吸引機で実際に吸引したところ、約3分程度で1m³分の軟質廃プラスチック類が1/3程度に圧縮されました。現場で圧縮し回収した軟質廃プラスチック類は中間処理後、製品に変化していくところも確認できました。各社のスキームを構築し営業に生かせるとよいですね。



▲圧縮袋準備



▲圧縮袋に詰める



▲圧縮後

廃蛍光灯専用容器について

ウムヴェルトジャパンの蛍光管はJF Eでのスキームをウムヴェルトジャパンに引き継いでいただき、専用容器の利用のため東明興業がストックしてくれています。専用容器を排出段階から使用することで、割れない措置と他の廃棄物と混ざらない処置がなされていてリスク回避にもつながっています。新規にウムヴェルトジャパンへの搬出を考えている組合員へは箱をお渡しします。



二次処理施設について

ギプロやトクヤマチヨダジプサムへ排出している廃石膏ボードのA品新築端材、B品壁紙付き、C品岩綿吸音板付き、D品その他水濡れ等の違いについて教えていただきました。



▲左から順に、A品、B品、C品、D品

最後に

軟質廃プラスチック類は、東明興業での中間処理後、フラフ燃料として売却していました。搬出（出荷）先の受入条件通りに非塩素と塩素成分の割合を確認しながら破碎圧縮し、中間処理しているとのことです。

フラフ燃料が製品として出荷されるまでには、圧縮袋→番線といった共同購買品の二刀流です。

また、新たな取組みとしてALCの再資源化についても開発中とのことでした。廃棄物中間処理工場のみならず、製品工場としての第一歩を踏み出しているように感じ取れました。

共同購買新商品説明では、地下駐車場など高さ制限のある場所でも設置可能な、新たなかご台車が購入できることを説明したところ、購入を前向きに検討いただきました。

